

十六アジアレポート 2026年5月号

JUROKU ASIA REPORT MAY 2026

2026年5月1日 発行 十六銀行 ソリューション営業部 海外サポート室

目次

1. ベトナム:「駐在1年目からひも解く『不変』と『激変』の現在地」

ハノイ駐在員事務所 長谷川晃照

2. 為替相場情報

本書中の情報は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては全てお客様御自身でご判断くださいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行及び執筆者はその正確性を保証するものではありません。また、本書中の情報は、法律上、会計上、税務上の助言を含むものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談ください。

1. ベトナム:「駐在 1年目からひも解く『不変』と『激変』の現在地」

ハノイ駐在員事務所 長谷川晃照

テトの静寂と変貌する首都ハノイ

ハノイ駐在を開始して1年、初めて迎えたテト(旧正月:2026年の元日は2月17日)は、西暦の年末年始とは一線を画す「魂の節目」であることを強く実感させるものであった。テト直前のベトナムは、街中を彩る金柑や桃の木、深紅の装飾などを背景に熱気にあふれるが、元日からの数日間、街は静まり返る。普段の喧騒が嘘のような静寂。これこそが、家族を何よりも優先するベトナムの本質なのだと思身で感じた。



静まり返るテトの街 筆者撮影

この1年を振り返ると、ベトナムは「不変」と「激変」が共存する特異なフェーズにある。街を埋め尽くすバイクの波や、乾季特有の深刻な大気汚染は変わらぬ景色だ。一方で、路上から屋台で使われるプラスチック製の低い椅子が徐々に姿を消し、スマートなカフェが増え、VinFast(ビンファスト:ベトナムのEVメーカー)の充電設備が街の至る所に整備されるなど、都市の近代化とクリーン化はすさまじい速度で進んでいる。

政治的な節目と自然の猛威

この1年、政治・社会面でさまざまな出来事があり、それに伴う変化とひずみを感じた。

■行政再編とデジタル化の摩擦

昨年7月に断行された行政区画再編は、省庁の統廃合に伴う混乱を招いた。これに加え、電子身分証(VNeID)の強制導入は現場に多大な負担を強いている。特に外国人駐在員にとっては、一時在留許可証(TRC)の更新手続きや、ベトナム国内用携帯番号を持たない場合の代替措置が極めて不透明なまま運用が始まり、実務上の大きな障壁となった。

■建国80周年の熱狂とナショナリズム

9月の「建国80周年」パレードは圧巻であった。主要幹線道路を封鎖し、戦車や装甲車が行進する光景は、単なる軍事力の誇示ではない。沿道を埋め尽くす市民の熱狂的な愛国心を目の当たりにし、これが一党支配体制下における国民の結束を確認する極めて重要な政治装置であることを再認識した。

■露呈したインフラの脆弱性

一方で、夏場から秋口にかけての記録的な大雨被害は深刻であった。経済成長のスピードに排水インフラの整備が追いつかず、ハノイ市内でも大規模な冠水が相次いだ。これは、今後の持続的成長における最大の懸念事項が「都市機能のキャパシティ不足」にあることを示唆している。

「若い国」ベトナムで起きている人手不足

ベトナムの年齢の中央値は33.9歳(2026年推計)と若く、労働力に事欠かない印象を受けるが、日系企業の現場では「ワーカー確保」が最重要課題に浮上している。

■製造拠点の南下と分散化

北部バクニン省やハイフォン市といった既存の工業集積地では、労働力争奪戦が激化し、離職率の高止まりが経営を圧迫している。これを受け、新規投資はハノイ南部（ハナム省等）や、さらに遠方の地方都市へシフトする傾向が鮮明だ。もはや「安価で豊富な労働力」という言葉だけでベトナムを語る時代は転換期を迎えている。

■チャイナ・プラス・ワンの功罪

中国リスクを回避するサプライチェーン再編の動きは依然として強い。しかし、急速な国内外からの投資拡大が、電力不足や物流コストの上昇、さらには賃金インフレを招いており、既存進出企業にとっては「恩恵よりもコスト増」の側面が強まりつつあるのが実情である。

グリーン・ファイナンスへの転換と「ベトナム的」即応性

ベトナムの金融・産業界が「グリーン」へと明確にかじを切った点は特筆に値する。政府が掲げる「2050年カーボンニュートラル」目標は、今や単なる外交上のスローガンではない。地場銀行の融資担当者が、バイオマス発電や太陽光関連の再生可能エネルギー案件に対し、審査基準を柔軟にしてでも推進しようとする姿勢は印象的だ。ESG投資への対応が、ベトナム企業にとっても国際競争力を維持するための必須条件となりつつある。

また、2026年早々に起きた「政令46号」をめぐる騒動は、ベトナムビジネスの難しさと面白さを凝縮した出来事であった。1月26日に公布・即日施行されたこの政令は、輸入食品・農産物への検査免除枠を大幅に縮小するもので、港湾での物流停滞という大混乱を招いた。現場は大パニックに陥ったが、産業界の悲鳴を受けた首相指示により、わずか数日後には施行延期が決定された。現場を顧みない強引な施行と、実利を優先した迅速な撤回。一見無計画に見えるが、この「走りながら考え、致命傷になる前に修正する」という即応性こそが、「ベトナム的」ガバナンスの本質であり、この国のバイタリティの源泉であろう。

結びに代えて

ハノイの空を覆う灰色の雲の向こうには、確実に次の時代の光が差し込んでいる。行政の不条理に憤り、交通渋滞にため息をつく日々ではあるが、それでもこの国に漂う「明日が今日より良くなる」という確信に近い熱量は、今の日本が最も必要としているものではないか。

ベトナム政府は、2026年の実質GDP成長率の目標として10%という非常に強気な数字を掲げている。クリーンエネルギーへの投資加速と、若年層の活力を背景とした内需拡大により、経済の成長エンジンは今後も高回転を維持するであろう。「予測不能なスピード感」と「したたかな適応力」を併せ持つこの国を今後も注視し、共に歩んでいきたい。

2. 為替相場情報

(1) 人民元一円為替相場(中国人民銀行公表仲値)

(単位:1人民元当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
3月23日	23.08403	3月24日	23.00120	3月25日	23.04466	3月26日	23.07497	3月27日	23.11017
3月30日	23.16370	3月31日	23.09682	4月1日	23.00966	4月2日	23.05210	4月3日	23.15512
4月6日	-	4月7日	23.19163	4月8日	23.16477	4月9日	23.17068	4月10日	23.22557
4月13日	23.28885	4月14日	23.27205	4月15日	23.23906	4月16日	23.23042	4月17日	23.24933
4月20日	23.22934	4月21日	23.22071	4月22日	23.26880	4月23日	23.26231	4月24日	23.28614

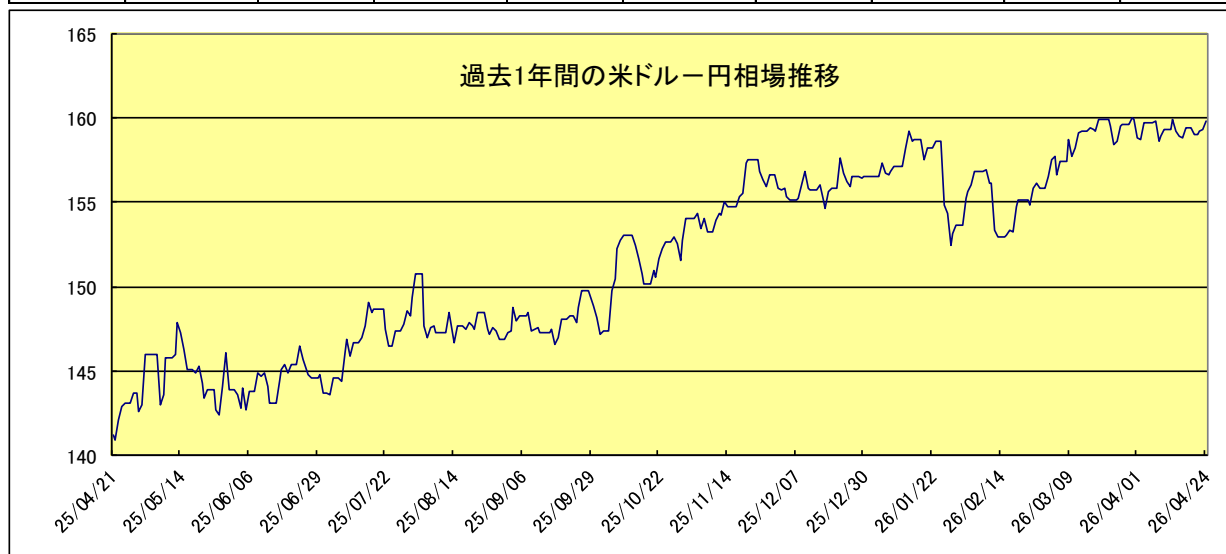


上記表、及びグラフはこの公表仲値を便宜的に1人民元当たりの日本円へ換算し直した相場です。
そのため、正式な人民元相場が必要な場合は、中国人民銀行にお問い合わせ下さい。

(2) ドルー円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

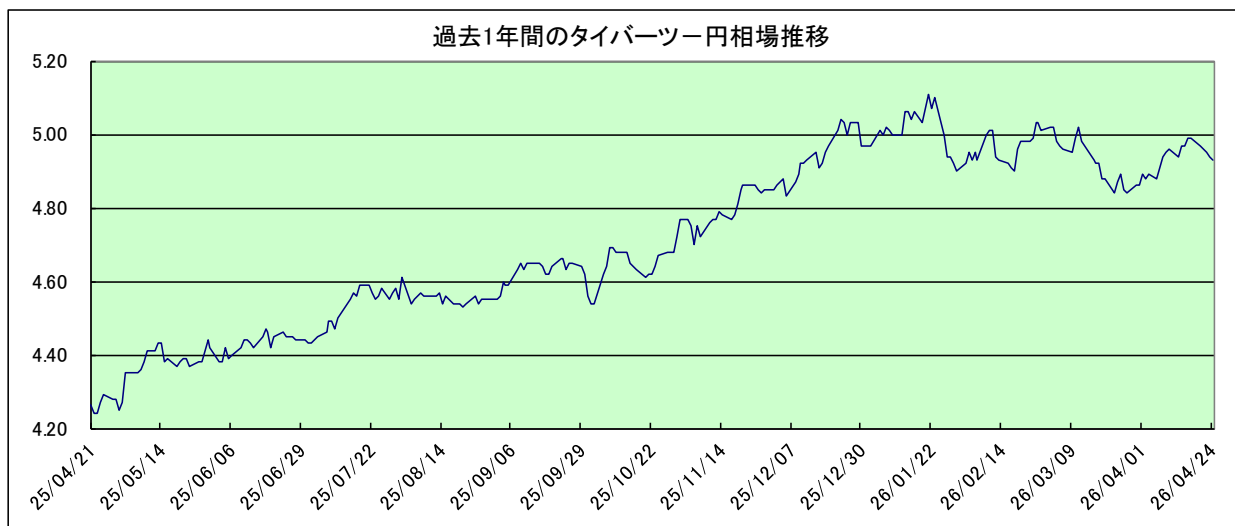
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
3月23日	159.52	3月24日	158.47	3月25日	158.66	3月26日	159.52	3月27日	159.60
3月30日	159.99	3月31日	159.88	4月1日	158.87	4月2日	158.72	4月3日	159.70
4月6日	159.77	4月7日	159.85	4月8日	158.65	4月9日	158.92	4月10日	159.30
4月13日	159.88	4月14日	159.23	4月15日	158.91	4月16日	158.82	4月17日	159.42
4月20日	159.01	4月21日	159.01	4月22日	159.21	4月23日	159.37	4月24日	159.84



(3) タイバーツ-円為替相場(当行公表仲値)

(単位: 1バーツ当たりの日本円)

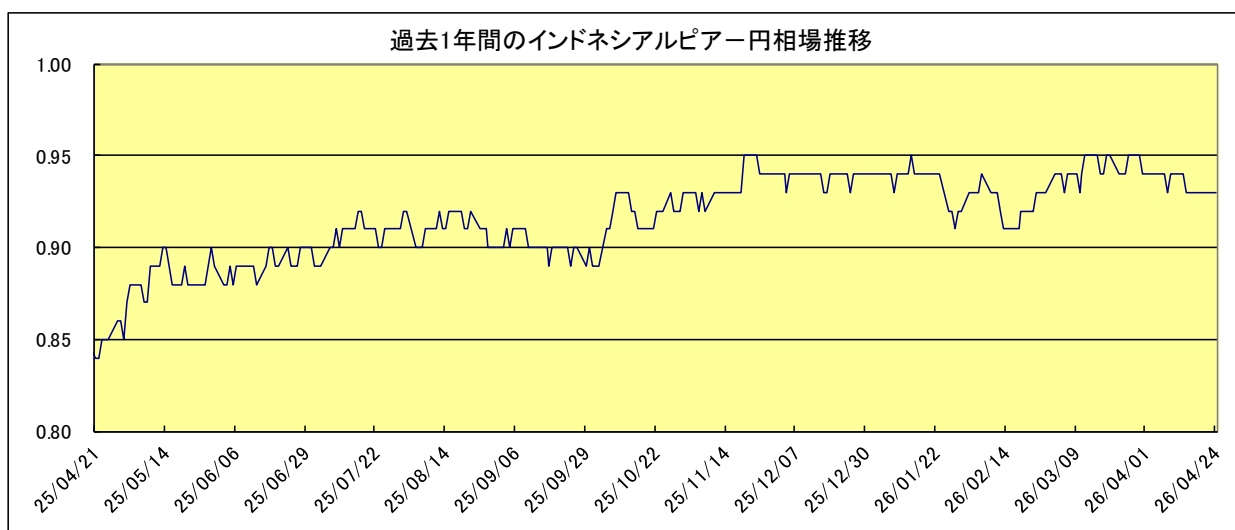
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
3月23日	4.8400	3月24日	4.8700	3月25日	4.8900	3月26日	4.8500	3月27日	4.8400
3月30日	4.8600	3月31日	4.8600	4月1日	4.8900	4月2日	4.8800	4月3日	4.8900
4月6日	4.8800	4月7日	4.9100	4月8日	4.9400	4月9日	4.9500	4月10日	4.9600
4月13日	4.9400	4月14日	4.9700	4月15日	4.9700	4月16日	4.9900	4月17日	4.9900
4月20日	4.9700	4月21日	4.9600	4月22日	4.9500	4月23日	4.9400	4月24日	4.9300



(4) インドネシアルピア-円為替相場(参考値)

(単位: 100ルピア当たりの日本円)

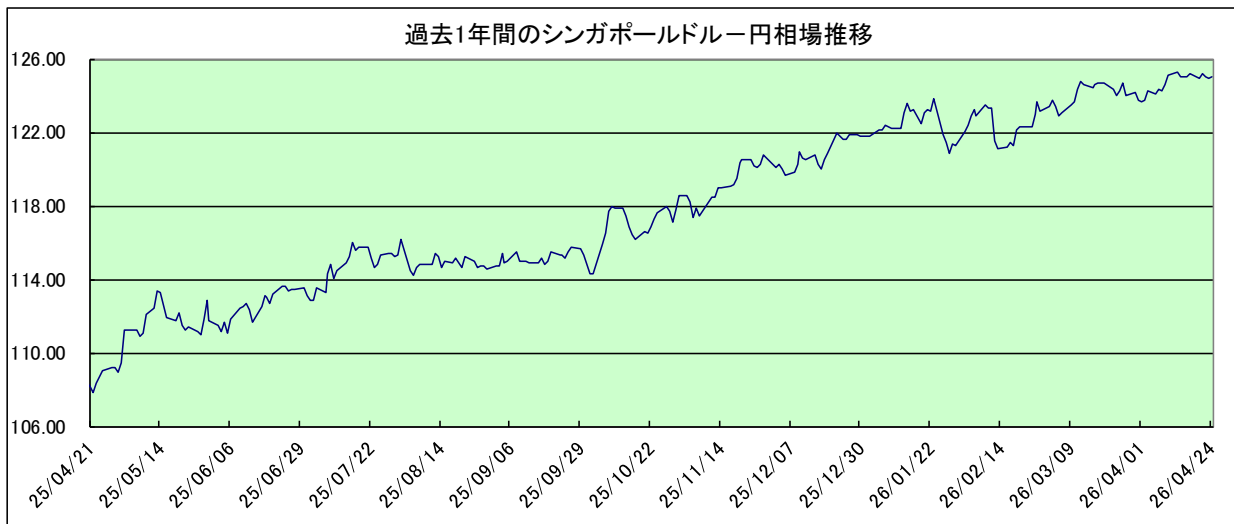
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
3月23日	0.9400	3月24日	0.9400	3月25日	0.9400	3月26日	0.9500	3月27日	0.9500
3月30日	0.9500	3月31日	0.9400	4月1日	0.9400	4月2日	0.9400	4月3日	0.9400
4月6日	0.9400	4月7日	0.9400	4月8日	0.9300	4月9日	0.9400	4月10日	0.9400
4月13日	0.9400	4月14日	0.9300	4月15日	0.9300	4月16日	0.9300	4月17日	0.9300
4月20日	0.9300	4月21日	0.9300	4月22日	0.9300	4月23日	0.9300	4月24日	0.9300



(5) シンガポールドル-円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
3月23日	124.3200	3月24日	124.0300	3月25日	124.2500	3月26日	124.6600	3月27日	124.0000
3月30日	124.1400	3月31日	123.7400	4月1日	123.6200	4月2日	123.7800	4月3日	124.2600
4月6日	124.1200	4月7日	124.3500	4月8日	124.2900	4月9日	124.6300	4月10日	125.0800
4月13日	125.2400	4月14日	125.0100	4月15日	125.0000	4月16日	125.0200	4月17日	125.2300
4月20日	124.9700	4月21日	125.1800	4月22日	125.0200	4月23日	124.9700	4月24日	125.0500



(6) ベトナムドン-円為替相場(参考値)

(単位:1000ドン当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
3月23日	6.0600	3月24日	6.0100	3月25日	6.0100	3月26日	6.0500	3月27日	6.0500
3月30日	6.0700	3月31日	6.0600	4月1日	6.0300	4月2日	6.0200	4月3日	6.0600
4月6日	6.0600	4月7日	6.0600	4月8日	6.0200	4月9日	6.0300	4月10日	6.0400
4月13日	6.0600	4月14日	6.0400	4月15日	6.0300	4月16日	6.0200	4月17日	6.0500
4月20日	6.0300	4月21日	6.0300	4月22日	6.0400	4月23日	6.0500	4月24日	6.0600

